

2022年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52328	教育相談 Educational Consultation	井手裕子	✓	共通	2	必修	2後期

科目の概要

教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深め、好ましい人間関係を築きながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。それは、学校心理学では、援助、指導サービスとして捉えられ、保護者支援も幼児、児童及び生徒の上記のような教育活動の一環として重要視されている。
 本授業では、発達に即した個々の心理的特徴や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（教育相談の意義、カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。具体的には、教育現場で児童・生徒、および保護者や職員に配慮した教育相談を行う際に必要なカウンセリングの基本的知識や理論、姿勢について学修する。実際場面でのロールプレイを取り入れ、教育現場で役立つ援助方法を体験し、子どもの気持ちの受け止め方と応答方法、保護者との相談面接の方法などカウンセリングの知識を基礎として理解を深める。また、保護者支援の基礎と実践場面をシミュレーションする。これらの取り組みを通して、乳幼児、児童、生徒への教育場面、特別支援教育の現場で活躍するための専門的知識・技能を修得し、それぞれの現場で連携も含めて活用する能力を身につける。
 ★総合病院やクリニックの精神科、心療内科における心理治療、大学院の実習施設における臨床心理学的指導、保健センターでの母子支援、学校のスクールカウンセリング、保育所での発達臨床等の臨床心理士、学校心理士、公認心理師としての実務経験は、専門的知識と技術を繋げていく方策を伝えることが可能であり、現場の具体的な支援方法の理解に繋げていけると考える。

学修内容	到達目標
① 教育相談の意義（保育者からの、乳幼児、保護者への支援の種類や相談の定義等）を学ぶ ② 学校心理学に基づく援助サービスを学ぶ。 ③ 基本的な相談を受ける方法（来談者中心療法、行動療法、精神分析的な心理療法から学ぶ信頼関係、守秘義務、関わり方等）を学び、演習を行う。 ④ 教育相談の実践場面の知識（不登校、虐待、いじめ、障害、保護者の精神的病気等）を得る。 ⑤ 相談業務における組織的な取り組み、連携等についての知識を得る。	① 教育相談の意義を説明することができる。 ② 学校心理学の基本的な考え方を理解し、その考え方を基に援助、指導サービスの実践を創造しながら考察できる。 ③ 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解し、説明できるとともに、多少の実践ができるようになる。 ④ 幼児、児童、生徒、その保護者における不適応場面を想像し、対応の方法を説明することができる。 ⑤ 教育相談の具体的な進め方、組織的な取り組みや連携の必要性を理解し、実践場面をシミュレーションし、実践する準備を整えることができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	調べ学習等の自発的な学習を行うことができる。
	働きかけ力	
	実行力	事例検討、グループ検討等の困難な課題にも粘り強く取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	事例検討等で事例を読み取り、登場人物のニーズを把握し、解決の手だてを把握できる。
	計画力	
	創造力	事例の解説通りではなく、それを土台とした自らの新しい発想を通して事例を解釈し支援計画を考えることができる。
チームで働く力	発信力	グループ討議の結果をクラス全体に分かりやすく発表することができる。また、相互に教え合うアクティブラーニング形式の学習方法を実行することができる。
	傾聴力	発表者の意見を自分の立場に置き換えて、発表者の意図をくみ取りながら聴くことができる。ロール・プレイにおいて相談者役の立場に立ち話を聴く姿勢を持つことができる。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。 欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：青木滋昌「精神分析治療で本当に大切なこと」誠心書房（¥2,400+税）
 その他：適宜プリントを配布する。
 参考文献：幼稚園教育要領（平成30年3月最新版）

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：障がい児保育、教育心理学、保育の心理学
 資格との関連：幼稚園教諭二種免許、保育士、准学校心理士

学修上の助言 **受講生とのルール**

理論と実践が結びつけられるようにしてほしい。そのため、まず知識を得ること、次に実習（ロール・プレイ）を行い、知識がどのように実習（ロール・プレイ）に生かされたかを確認すること。その繰り返しを行うことで、実際の保育、教育場面において、実践が可能となる。	授業は集中して聞き、疑問がある場合は積極的に質問すること。 ・20分を超えた遅刻は欠席扱いとする。 ・授業態度が悪い場合（居眠り、私語、周囲に迷惑をかける行為等）はマイナス扱いとすることがある。 ・提出物に関するルール（授業開始時にプリントを配布）に従って提出すること。ルールに従わない場合は減点となる。
---	---

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	90	①	✓	①から⑤の内容について、筆記試験（レポートを含む）を行う。	
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤	✓		
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
		レポート		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	(主体性) 課題や疑問に対し、能動的に学修を進めることができる。 (実行力) 与えられた課題に対し積極的に取り組むことができる。提出物の期限を守れる。 (課題発見力) 学修した内容の問題点を認識できる。コメントシートに反映できる。 (創造力) 学修した内容を応用できるように作りかえられる。 (発信力) 自分の意見を具体的にわかりやすく相手に伝えるなど表現できる。 (傾聴力) 私語をせずに人の話を聴き、理解することができる。 (規律性) 遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。 欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。 欠席日数で評価する。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S：教育相談の意義、学校心理学の考え方を基に援助、指導サービスの実際を創造しながら考察できる等の到達目標①から⑤までの到達レベルが十分発揮できていることが筆記試験に反映されている。また、社会人基礎力との関連性が説明できる。 A：到達目標①から⑤までの到達レベルを満たしていることが、筆記試験、社会人基礎力(学修態度)、その他(課題)の評価方法において反映されている。	B：到達目標①から⑤のレベルが、筆記試験、社会人基礎力(学修態度)、その他(課題)の評価方法において力を発揮できていることが反映されている。 C：到達目標①から⑤のレベルを、最低限満たしていることが、筆記試験、社会人基礎力、その他課題で反映されている。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 保育所、幼稚園における相談支援とは 学校のカウンセリングについての定義と学校心理学の考え方を学ぶ	講義 グループ討議	幼児教育における相談支援の在り方が理解でき、説明できる。また、学校における問題行動の内容から、教育相談の必要性を理解し、学校心理学の考え方を説明することができる。	復習：学校カウンセリング（学校心理学を含む）について記載されている配布プリントを見直し、理解できなかったところを整理し、次回の質疑応答時間に備える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	教育現場の専門性を生かした支援を学ぶ（意義と課題を含む）。教師が相談を行う際の、面接の目標づけ、ケースの見立て、支援計画の立案、ケース会議と他教員・スクールカウンセラー等との連携、学校不適応（いじめ、不登校・園、虐待、非行、その他）の理解と対応を概観する。その後で、実習中の気になる子について、実際の相談について計画し、ロール・プレイングの準備を行う。	前回授業の質疑応答、 前回配布プリントのフィードバック及び解説。 講義 グループ討議	保育の現場で特性や専門性を相談支援にどう活かすかを理解し、シミュレーションすることができる。実際の相談場面を創造し、計画を立てる（シナリオを作成する）ことができる。	予習：保育所保育指針幼稚園教育要領の第1部第4章 p 304～317を読む。 実習時の気になる子について記述しておく。 復習：幼児教育における相談支援の意義についてのプリントを見直し、質疑応答時間の質問について考え、準備しておく。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	「実習中の気になる子」を参考にし、実際の相談場面を作り、体験学習（ロール・プレイ）を行う。	前回授業の質疑応答、前回配布プリントのフィードバック及び解説方法の提示、体験学習（ロール・プレイ） ①自分のシナリオを他者が相談者、自分が親役となってロール・プレイを行う。②自分のシナリオを自分が相談者、他者が親役となり、ロール・プレイを行う。 振り返りのための感想、評価レポートの作成を行う。	自分の立案したシナリオを、客観的な他者が演じて同様の相談活動を行うことが可能となるよう、作成することができたかどうか評価できる。	予習：「気になる子」についての相談場面についてシナリオを作成する。 復習：ロール・プレイを振り返りながら、感想、評価レポートを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	臨床心理学的視点からの心理療法1. 来談者中心療法について学ぶ。	前回授業の質疑応答、 前回配布プリントのフィードバック及び解説。 講義 グループ討議	来談者中心療法についての知識を説明することができ、なぜ教育相談に必要であるかを想像し、説明できる。	予習：プリントの来談者中心療法が記載されている部分を読み、どのような療法であるのかを具体的に調べてくる。 復習：来談者中心療法のプリントを読み返し、わからないところを記述し、次回のフィードバック時に質問する準備を整えておく。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	臨床心理学的視点からの心理療法2 行動療法、認知行動療法について学ぶ。	前回授業の質疑応答、 前回配布プリントのフィードバック及び解説。 講義 グループ討議	行動療法、認知行動療法の知識を説明することができ、実際の場面を想定して、シミュレーションすることができる。	予習：プリントの行動療法について書かれている部分を読み、どのような療法であるのかを具体的に調べてくる。 復習：行動療法、認知行動療法について、概要を見直し、要点を記述する。分からないところを記述し、質問する準備をする。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	臨床心理学的視点からの心理療法3 精神分析的な心理療法について学ぶ。	前回授業の質疑応答、 前回配布プリントのフィードバックおよび解説。 講義 グループ討議	精神分析的な心理療法の知識を説明することができる。	予習：プリントの精神分析的な心理療法について記載されている部分を読み、わからない用語を調べてくる。 復習：プリントを読み返し、理解できたところと分からないところを記述し、次回の質疑応答時の準備を整える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	遊戯療法、箱庭療法について	前回授業の質疑応答、 配布プリントのフィードバックおよび解説。 講義 グループ討議	遊戯療法、箱庭療法の知識を説明することができる。幼児への臨床的な応用を理解することができる。守秘義務についての支援が理解できる。	予習：プリントの遊戯療法、箱庭療法の部分を読み、わからない用語は調べてくる。 復習：プリントを読み返し、理解したところ、分からないところを記述し、次回の質疑応答の準備を整える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	共感と傾聴について学ぶ。 ①精神分析的な心理療法における共感、傾聴について教科書をもとに理解する。②共感性の応答訓練についてクライアントの心理、クライアントの準拠枠についての講義と、スキルトレーニング	前回授業の質疑応答、 前回配布プリントのフィードバック及び解説。 講義 グループ討議	教科書を読み、心に寄り添う支援と具体的に支える支援を実際の文章から理解できる。また熟考、関連付け、優先順位付け、準拠枠を説明できる。共感、傾聴の意味を話し合うことができる。	予習：テキスト p5～28第1章「私の聴き方」を読む 復習：テキストを見直すとともに、共感について、理解できたこと、できなかったことを記述し、次回の質疑応答時間への準備を行う。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	実際の面接法を学ぶ 座り方と距離、非言語的表現を考える。	前回の授業の質疑応答、前回配布プリントのフィードバック及び解説 講義 グループ討議 発表	面接の実際の方法について説明することができる。非言語的表現を考え、発表することができる。	予習：プリントに記載されている面接についての箇所を読み、具体的に想像（シミュレーション）してみる。 復習：プリントを見直し、次回に備える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	ロールプレイによる言語的関わりを体験する。	前回の授業内容についての質疑応答、フィードバック 方法の提示 体験学習（ロール・プレイング） 振り返りのための感想プリントの作成	体験学習を通して、人の話を傾聴すること、傾聴されること、全く話を聴いてもらえないことについて説明することができる。実践につながるような文章で表現できる。	予習：ロール・プレイでの相談内容を考えてくる。 復習：体験学習を振り返りながら、感想レポートを完成させる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	ロールプレイによる非言語的関わりを体験する。 風景構成法 スクイグル法の体験学習	前回の授業内容についての質疑応答、フィードバック 方法の提示 体験学習（ロール・プレイング） 振り返りのための感想プリントの作成	風景構成法、スクイグルのしくみを説明できる。枠を設けることについての必要性を説明できる。 体験学習（ロール・プレイング）の感想レポートを完成させることができる。	予習：風景構成法、スクイグルについて調べる。 復習：体験学習を振り返りながら、感想レポートを完成させる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	事例検討を学ぶ 新米保育士（幼稚園教師）が、母親に言われた一言について	前回の授業内容についての質疑応答、フィードバック 事例提示と解説 体験学習（ロール・プレイング） グループ討議、発表	新米保育士として母親への接し方を理解し、実際にロール・プレイングによって体験的に行うことができる。体験学習を振り返り、望ましい接し方を説明できる。	復習：共感と、言い方についてのグループ討議を振り返り、理解できた部分と理解できない部分を記述し、質疑応答に備える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	幼稚園はじめ現場内と地域との連携について事例検討会について学ぶ	前回の授業内容についての質疑応答、フィードバック 講義 グループ討議 発表	現場の教師との連携、地域の支援施設の役割を理解し、実際に幼児、生徒に対する支援が必要となった時に行動することができる。	予習：事例検討1を討論するために必要な知識（不登校に関する用語）を調べてくる。 復習：発表のプリントを見直す。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	事例検討を行う。 ①不登園の母親からの相談について、具体的な準備、想定を考える。 ②虐待、または発達に問題のある子どもの母親支援について具体的な準備、想定を考える。	前回の授業内容についての質疑応答、フィードバック 講義 グループ討議 発表	家族への支援の実際を理解し、説明できる。また事例検討から支援をシミュレーションできる。	予習：事例検討2を討論するために必要な知識（虐待の定義等）を調べてくる。 復習：発表等のプリントを見直し、次回の質疑応答に備える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	精神的な病気について理解を深め、現場での母親対応につなげていくための知識を得る。 （人格障害、ヒステリー、強迫性障害、摂食障害等）	前回の授業内容についての質疑応答、フィードバック 講義 調べ学修 ポスターセッション	精神的な病気の症状を理解し、現場での母親対応を行うときの対応につなげることができる。	予習：精神的な病気についてのプリントを読み、事前に調べてく。 復習：ポスターセッションを見直す。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力